

FEM-13

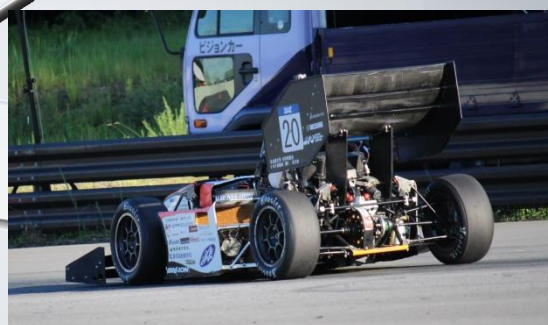
レーシングカーを運転する楽しさを体感できる Formula Entertainment Machine



レーシングカーとしての速さと、アマチュアサンデーレーサーにもその性能を引き出せる扱いやすさの両立するため、高い限界性能や優れた過渡特性に加えて、優れたマン-マシンインターフェースの実現を目指した。

リアボックス廃止やカーボンハニカムパネルの採用などの徹底した軽量化を行いつつ、エンジンレスポンスの向上、汎用ECUの採用など、海外校にも勝ちうるマシンの開発に尽力した。

大会では天候や路面コンディションに恵まれず、そのポテンシャルを果たすことはできなかったが、静的審査においてマシンの総合力を示した。



第14回大会成績

- 総合 5位
- 静的審査
 - ・デザイン審査 2位 (140/150pts)
 - ・コスト審査 5位 (67.00/100pts)
 - ・プレゼン審査 2位 (71.25/75pts)
- 動的審査
 - ・アクセラレーション 6位 (63.54/75pts)
 - ・スキッドパッド 19位 (9.69/50pts)
 - ・オートクロス 51位 (52.89/150pts)
 - ・エンデュランス 6位 (252.59/300pt)
 - ・効率(燃費) 25位 (47.92/100pts)

- ・ICV総合優秀賞 4位
- ・日本自動車工業会会長賞(全種目完遂)
- ・袋井市長賞(静的審査合計点が1位)

